社会科学習指導研究委員会

一　テーマ

子どもが社会的事象を自分事として追究し、多面的・多角的に考察するための指導と支援のあり方

二　テーマ設定の理由

児童生徒が社会科における基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、社会的な見方・考え方を働かせた思考力や判断力、表現力をつけるためには、児童生徒が出会う社会的事象を自分事として追究し、様々な視点から多面的・多角的に考察することが必要となる。そのためにはどのような授業を構想し、どの単元で、どんな場面で、どんな支援が必要か、１年を通して追究したいと考えた。また、各校に導入されているICT端末を、どのように活用すれば生徒の主体的・対話的な学習が実現できるか、合わせて研究したいと考えた。

以上から、上記のテーマを設定した。

三　研究の経過

本年度は、青木町立青木中学校の授業を参観させていただいた。その実践から、今年度の成果をまとめた。

四　研究の内容

１　単元名　　「現代社会の見方や考え方」

２　単元設定の理由

**〈教材について〉**

本単元は，学習指導要領「公民的分野 ２内容A私たちと現代社会の（２）現代社会をとらえる枠組み」を扱っている。ここでは、きまりの意義などに関する理解を基に考察し、表現することができる適切な問いを設け、課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代社会を捉え、考察や構想する際に働かせる概念的な枠組みの基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解できるようにするとともに、現代の社会的事象について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を養うことをねらいとしている。殊に、対立と合意、効率と公正などについては、それぞれが所属する社会集団におけるトラブルや紛争、交渉がまとまらないことなどを「対立」と捉え、このような対立が生じた際に何らかの決定を行い「合意」に至る努力がなされていることについて理解できるようにすることを意図している。さらに、「合意」がなされるためには、決定の内容や手続きの妥当性について、「効率」や「公正」などを基準として判断する必要がある。これらを現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、以後の政治、経済、国際社会の学習の導入とすることをねらいとしている。

**〈生徒の様子 〉**

本学級は、社会的事象に対して興味や関心をもち、課題に対して仲間と積極的に意見交換をするなど、意欲的に取り組んでいる。単元テストや定期テストにおいて知識を問う問題に関しては，高い正答率を獲得している。しかし、「なぜ」「どうして」という発問に答えることができる生徒が少なく、ワークやテストにおいても、理由や原因・結果を答える記述の問題を苦手としている生徒も少なくない。また、資料を適切に読み取ることができても資料等の根拠を基に論理的に自分の考えを伝えることを苦手としている生徒が多い。そこで社会事象を、根拠を基に社会的な見方や考え方を働かせて論理的に自分の考えを表現したり筋道立てて説明したりする学習活動の充実を図る必要があると考えられる。

　また、青木村という小規模のコミュニティーで育ってきた生活環境にあることから、小学校からの固定化された人間関係の中で過ごしてきた。その中で、他者とのコミュニケーションをとり、多様な意見に出会うことや意見を対立させて課題を解決していくという経験が少ない。そのため、問題が生じた際に自己の意見を主張をするよりは、譲り合いが生じてしまう。したがって、中学を卒業し新たな社会集団の一員として社会に一歩踏み出す際に、他者と関わり合いながら対立した時には協力して現代社会を生きていくための社会性や判断力を身につけていく学習が必要不可欠であると考えた。

**〈授業に向けて〉**

現代社会を捉える視点として、公民学習の基本となる「対立と合意」「効率と公正」などの現代社会をとらえる見方や考え方を学習し、政治や経済、国際社会における原理を生徒に理解させる必要がある。そのために、生徒にとって身近な例を取り上げ、個人やグループでの追究を通して、現代社会を捉える見方や考え方の基礎を身に付けさせたい。その際、教科書の「大会直前の体育館使用」について考える事例は、本校では対立が生じる場面が見られない。そこで、これから生徒たちが直面するであろう「文化祭直前の体育館使用」についての事例を用意し、生徒に考えさせたい。そして、根拠を基に論理的に考えを表現するために、グループでの話し合いの際に思考ツールを使用することで生徒たちの思考の顕在化を図っていく。その際に、クロムブックを活用することで、書くことを苦手としている生徒にも活動しやすくする。さらに、資料を読み取ったり自分で考えたりしたことを話し合い、表現させることで、多面的・多角的に考える力を養いたいと考え、本単元を設定した。

**３　単元展開**

単元を貫く問い：現代社会の課題を解決するために、どのような見方・考え方が大切にされているのだろう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ・学習活動  学習問題 | ○指導【評価】 | 時数 | 資料  資料 |
| ・人間が社会的存在であることを自分が所属する集団を考えることで理解し、対立と合意とはどのような状態かを「文化祭直前の体育館使用」の事例を通し、考える。  私たちの社会生活はどのように社会に関わっているのだろう。  ・事例についてのきまりを知る。  ・個人で解決策について考える。 | ○生徒から出された集団を「生まれたときから所属している集団」と「目的を持って参加する集団」に分類していく。  ○社会生活においてあらゆる場面で「対立と合意」があることを確認し、今後の公民学習を通して「対立と合意」という視点が重要であることを確認する。  〇「文化祭直前の体育館使用」についての事例を、決まりと共に提示し、事例の対立と合意について考える。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【Ａ】 | １ | 「文化祭直前の体育館使用」の例  対立と合意の構想図  体育館使用のきまり |
| ・対立を防ぐために決まりを作りそれを共有し、決まりに定めた権利、義務、責任を守ることで社会秩序が守られていることを、身近な決まりを挙げることで理解する。  私たちの生活において、なぜ決まりが大切なのだろう。  ・身近な決まりが誰のどのような義務や責任が定められ、権利や利益が守られているかを考え、まとめる。  ・「文化祭直前の体育館使用」の事例を考える際の決まりについて確認する。 | ○決まりによって権利や義務、責任が生じる例として、契約もあることを紹介し、口頭での約束も契約であることを確認する。  ○契約は合意で成り立つことを理解できるようにする。  ○物事の決定の方法と採決の方法について、みんなの意見をできるだけ反映させることが原則であることを、教科書の表を用いて理解できるようにしていく。  ○前時の「文化祭直前の体育館使用」の例に関するきまりについて確認し、次時につなげる。　　　　　　　【Ｂ】 | ２ | 契約書の例  物事の決定・採決の方法の表  「文化祭直前の体育館使用」の例に関するきまり |
| ・第1時に考えた「文化祭直前の体育館使用」について、資料やグループでの話し合いを基に効率と公正の視点で合意に至る解決策を考える。  みんなが納得のできる解決策を作るために、どのようなことを考えればよいのだろう。 | ○対立から合意に導くためには、効率と公正の考え方が重要であることを押さえ、それぞれの考え方について説明する。  ○活動時間を前半と後半に分けるなど、条件を変更することでみんなが納得できる解決策に近づける可能性があることに気付かせる。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【Ａア】【Ｂ】 | **３**  **本時** | 「文化祭直前の体育館使用」の例  対立と合意の構想図  Chromebook  ジャムボード |
| ・既にある決まりの問題点を資料から読み取り、決まりの見直しや評価について考察する。  どのようなときに決まりの変更ができるのだろう。 | ○前時に学習した効率と公正の観点に着目させ、それぞれの団体の希望をできるだけ叶える方向で考えさせる。  ○さまざまな社会集団の中で折り合いをつけ、共に生きようとする努力によって社会が成り立っていることに気付かせる。　　　　　　　　　　【Ｂ】 | ４ | 前時までの資料 |
| ・Ｔ市の駐輪場問題について、対立から合意に導くための解決策を、決まりを評価する視点で検討する。  Ｔ市の自転車のルールを考えよう。 | ○条件や対立の構造を提示し、十分に理解させる。  ○対立と合意、効率と構成の考え方を活用して、持続可能な社会の実現のために何ができるかを考えさせる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　【Ｃ】 | ５ | Ｔ市の駐輪場問題の事例  ワークシート |

**４ 本時案**

**（１）本時の主眼**

社会生活における対立と合意、決まりの必要性を学んだ生徒たちが、文化祭1週間前の体育館使用の事例について対立から合意に至る解決策を考える場面で、資料を読み取ったり、思考ツールを用いたりすることで友の意見を基に効率と公正の視点を取り入れて解決策を考える活動を通して、みんなが納得できる解決策を考えることができる。

**（２）展開案**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 予想される生徒の反応 | ◇教師の助言・指導・評価 | 時間 | 備考 |
| 問題把握  /  追  究  /  まとめ | １　第１次の「文化祭直前の体育館使用」についての対立を振り返る。  ２　教師の説明を聞き、対立を合意に導くためには、「効率」と「公正」に着目して考えることを知る。  ３　事例についての「効率」「公正」とはどのようなことかを全体で確認する。  ４　各自が考えてきた解決策を基に、効率と公正の視点を入れてクラゲチャートを使いながら体育館使用を調整していく。  （グループ追究）  ５　班ごと考えた調整案を発表する。  ６　学習問題に対する答えを記入する。 | ア　いろんな団体が体育館を使いたかったんだ。  イ　対立をみんなが納得できるような解決策(合意)に導いていくことが大切だった。  ウみんなが体育館を使用できればいい。  エ　体育館使用にもルールが必要だったな。  **学習問題：みんなが納得して体育館を使用するためには、どのようなことを考えれば良いのだろう。**  オ　効率とは無駄を省くことか。  カ　公正は機会が平等になることか。  キ　普段も何気なく考えているよ。  ク　この場合の効率は、体育館に無駄なスペースがないことだ。  ケ　時間のことも関連しそうだ。  コ　みんなが体育館を使用できるのは、公正だ。  サ　様々な条件によっても、効率と公正は変わってきそうだ。  **学習課題：効率と公正の考えを基に、みんなが納得できるように体育館使用を調整していこう。**  シ自分の考えた時間を区切ればいいというのは、効率と公正のどちらだろう。  ス単純に曜日で分けるのは、効率が悪いな。  セ半分使えればいい団体を二つ入れるのはどうか。  ソ全面使用したい団体があっても、ステージは使えそうだ。  タクラゲチャートで調整した意見を、スライドでまとめてみたいな。  チ自分たちと同じ考えだ。  ツ参考になる意見があった。  テ発表が工夫してあっていいな。  ト調整の仕方が、自分たちには思いつかなかった。  ナいろいろ考えられているな。 | ◇どのような対立だったかを思い出すようにさせる。  ◇自分の考えた解決策を振り返らせる。  **【評価の観点１】**  **効率と公正の意味について理解することができたか。**  **（知識・技能）**  ◇思考ツール（クラゲチャート）を活用しながら、考えるように指導する。  ◇クラゲチャートをChromebookでも、紙ベースでも、使いやすいほうを使えばいいことを伝える。  ◇効率と公正の観点で考えているかを机間指導する。  ◇クラゲチャート以外でも、ジャムボードやスライド、タイムスケジュールを使ってもいいことを伝える。  ◇班の意見を発表するよう促す。  ◇対立があっても、効率と公正を判断基準としながら、全員が納得できる解決策を考える必要があることを説明する。  **【評価の観点2】**  **対立と合意、効率と公正に着目してみんなが納得できる解決策を考察し、表現することができたか。**  **（思考力・判断力・表現力）** | ３  ５  ２７  10 | 事例の資料  対立と合意の構造図  効率と公正の構造図  思考ツール（クラゲチャート）  タイムスケジュール  （必要に応じて）  学習カード（スプレッドシート） |

５　成果と課題

【成果】

・生徒の身近なことを事例として取り上げたことで、生徒が自分事として学習課題を考えることができた。

・思考ツール（クラゲチャート）を使用したことが、思考の整理に繋がった。

・追究したいと考えている子どもの姿が見られた。

・ワークシートは、クロムブックと紙ベースのものと2種類用意し、選択制にしたことがよかった。

【課題】

・課題が生徒の身近なものになりすぎたため、これまでの習慣で考えてしまった。（一般化しすぎてしまった）。少しハードルの高い課題の方が話し合う必然性が生まれてくる。

・「効率」と「公正」の概念をしっかり押さえてから学習活動に進んでいくことで、子どもたちが自分で考えるものと、学習してきたものの比較をすることができた。

・学習問題は、子どもにとって自分のものになる問いにしていく。

・思考ツールの使い方をあらかじめ、説明することが大事。

・評価を精選していく。

以上のことから、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するためには、

* **学習問題を自分事としてとらえられる工夫をする**
* **ワークシートは紙ベースとデータの両方を用意する**
* **思考ツールを活用する**

が有効であることが示された。

五　終わりに

　　コロナ禍が続く中であるが、出来る限りの研究を行ってきた。

　　来年度も、今年度の成果と課題を生かし、継続して研究を行っていきたい。